

令和6年度 学校評価シート

学校名：きのかわ支援学校

校長名：石本 辰夫

現状・進捗度	A	十分に達成している。（80%以上）
	B	概ね達成している。（60%以上）
	C	あまり十分でない。（40%以上）
	D	不十分である。（40%未満）

目指す学校像・育てたい生徒像（スクール・ポリシー等に基づいて記載する）	学校評価の公表方法
・一人ひとりが主人公になれる学校 ・安全で安心して学べる学校 ・保護者や地域とともにあゆむ学校 ・自分で考え行動し、好きなことを見つけ楽しむ子ども ・心身ともに健康でたくましく、人とつながりあえる子ども	授業参観における保護者アンケート及び学校関係者アンケート等を学校運営協議会、育友会役員会に報告し、保護者に文書で知らせる。

自己評価（分析、計画、取組、評価）							
番号	計画・取組				評価（2月18日現在）		
	重点目標	現状	具体的取組	評価項目と評価指標	進捗度	進捗状況	今後の改善方策
1	地域との連携や協働活動を学校全体として取り組む	B	伊都中央高等学校と共同学習をおこなう	生徒の意欲が見え、積極性があったか	A	授業では生徒同士で積極的に意見を交わす姿勢が見られ、日常生活においてもその成果が見られる。	高野口マルシェや高等部作業学習等の取組をもとに、地域との連携を深め、本校の児童生徒に身につけさせたい「つきたい力」の育成を図る。
			学部の取り組みを明確にし、参加可能な体制を作る	各学部として役割分担し、参加できたか	A	高等部が中心となり、役割分担を明確にして取り組めた	
			学校運営協議会の意見を取り入れ、参加体制を強化する	学校運営協議会の意見を反映されたか	A	取組に対する評価をもとに、改善を図ることができた。	
2	つきたい力を基にした授業づくり	C	学校教育目標達成のための教育内容の評価改善を行う	つきたい力を活用し、授業づくりを充実したか	B	つきたい力を単元計画に位置付け、時間や内容のまとりのなかで評価を実施した。	関係者からご意見等をいただいて作成した本校のつきたい力と、学習指導要領の目標や内容との関連について、全体研修を通じて明確にすることができた。次年度、単元計画に基づいて実践し、学習評価から分析を進める。
			社会生活力の向上のためまずは丁寧な挨拶を行う	児童会、生徒会と連携を取り、実施したか	B	児童会・生徒会が中心になり、年間を通じて挨拶運動を行った。	
			社会で生きていくために、主体的に生きる力をつける	単元・教材・授業モデルの備蓄したか	B	全体研修の中で学習指導要領に基づいた単元計画の作成を行った。	
3	情緒不安定な児童生徒や愛着に課題の児童生徒など個々の障害特性を踏まえ、児童生徒が安心して学習に取り組めるよう、専門性の向上や人権意識の向上に取り組む	C	障害理解を行い、個々に対応ができるようにする	クラスの児童生徒の障害理解を研修で理解したか	B	自立活動の研修等を通して、障害の理解に努め、個々に必要な手立てや支援についての理解を深めた。	職員会議等の機会を設けて、教育支援部、自立活動部、人権教育部がそれぞれに改善点を発信していく。また、いじめ未然防止に向けた教員の意識改革を、児童生徒指導部を中心に進める。
			丁寧な言葉遣いと承認・賞賛・励ましの言葉を発信する	人権チェックシートを活用し、改善したか	A	人権チェックシートを年3回実施し、意識向上を行った。	
			個々の教職員の役割を明確にした運営を行う	授業参観や学校運営協議会における意見を反映できたか	B	人権チェックシートの改善など、意見を受けながら進めることができた。	
4	目的や意図を明確に組織の在り方を理解する	C	組織としての定義、在り方を全職員に発信する	チームづくりに関して、管理職が統一できたか	A	次年度に向けたプロジェクトの発信を通して、チームとしての意識付けを行った。	学校課題の解決のために教職員がやりがいを感じ、教職員自ら生き活きと授業を進める中で子どもたちの成長をより実感し、教職員で共有することができるよう、個々の教員の役割を明確に示したプロジェクトを推進する。
			各分掌の目標を明確にし、役割を分担する	目標設定と役割を全職員で共有し、実施できたか	B	定型の業務以外にも、個々が担う役割について、職員会議等で発信を行った。	
			会議の設定や到達設定の重要性を理解する	会議の流れを理解し、到達改題が解決できたか	A	会議資料の事前配付を徹底し、協議に重点を絞った。	

学校関係者評価（2月18日実施）

学校評価保護者アンケート結果について全体的に昨年度に比べて評価が高い

○高評価の項目内容

・毎日、安心して通うことができています。

・いつも児童生徒のための気配りに感謝する。

・一人一人に対して目が届いている。

・教材等に様々な工夫をしている。

・親身になり、児童生徒の相談にのっている。

学校運営協議会委員からの意見

・今年度から高等部（マーケティング班）でスタートした伊都中央高等学校との学校間交流では、お互いが教科等に位置づけた共同学習となっている。年間15回の取り組みを進めていく中で、実際の授業の評価や日常生活における生徒の変化等、取組の成果を報告する中で、次年度についても共同学習の取組を進めて欲しい。

・つきたい力を育むためには、児童生徒自身が自分の進路等について選択・決定することができる力を高めるなど、キャリア教育の視点からもさらなる充実をはかる必要がある。

・安心、安全な学校づくりとして、人権が尊重される学校づくりなど、教員の人権意識を高めるためのチェックシートの活用等の取組について報告する中で、学校マルトリートメントを踏まえた取組などについては、教職員が注意すべき点を意識するだけでなく、教職員の姿勢等の中で、子どもに対する良い関わりなどのプラスの面についても校内に発信し、教職員間で共有することが重要である。

・教職員の個々の頑張りをより組織的な取組として高めていくために留意すべき点と併せて働き方改革の視点も踏まえた改善が必要である。